

はじめに

技術室長 小泉 誠

京都大学防災研究所技術部は平成8年5月、研究所が全国共同利用研究所に改組されると同時に第5番目の国立大学付置研究技術室として設置された。本年5月には5年目を迎えることになった。技術職員は大きく分けて宇治地区を隔地観測所に配置されており。観測所に配置の技術職員は勤務地において研究者とともにあるいは独自に施設の維持管理をはじめ、主として観測データの取得、データ整理・分析に従事している。一方、宇治地区の技術職員は部門あるいはセンターの職場で研究者と共同で実験、観測に携わり、機器の開発や機器の運転等にも従事している。もちろんここでも観測所同様、各種データの取得、データ整理・分析も行われ研究者の要求に供している。

技術室設置以前の技術職員は、部門・センターにおける研究室や実験所においてそれぞれが専属的に業務に従事していたが、技術室が出来てからは研究所全体に関わる業務や、共同利用研究所としての業務および従来から継続的に行われている研究の技術支援など広範な業務を行うようになった。従って技術職員を持たない部門・センターの研究者からの技術支援要請に対しても十分とはいえないが応える体制が出来ている。技術職員が技術室に結集したことにより様々な技術を有する技術職員がより広い研究分野で効果的に活躍出来ることになり、そのことが技術職員全員の知識の向上、技術力の向上につながっている。技術職員は研究者の求める研究目標を理解し、より高度の技術的要求に応えるべく自らの研鑽を目指しており、技術室はそのための環境作りのために研修、講習会、研究会への参加を促進するとともに技術室全体のパワーアップと高い評価を求めるための施策を実行しなければならない。今回発刊することになった「技術室報告」は技術職員の日頃の技術研鑽の成果と技術室の活動を記録にとどめ集積していくことを目指している。このことによって技術の継承と己の遂行した仕事をまとめるという習練を兼ねている。この作業の中で新たな発想の誕生や課題を浮き彫りにしてさらなる技術力の発展に結びつけばこれに越したことはない。今後は技術職員ひとりひとりが積極的に投稿に参加していくことで継続的に刊行されることを期待している。

発刊に際し防災研究所所長 池淵周一教授および技術運営委員会委員長 住友則彦教授並びに多くの教官の方々に多大のご協力をいただきましたことをご報告致します。

なお、この小冊子に対するご助言、ご批評をいただき今後改良を重ねて行く所存であります。